

池袋駅周辺地域まちづくりの将来像と戦略 「池袋駅周辺地域まちづくりガイドライン(H28.7)」の概要

【池袋駅周辺地域再生委員会】

1. 池袋駅周辺地域における都市再生のポイント

(1) 日本における都市再生の意義

- ▼ 人口減少を迎えた日本は、海外、とりわけアジアの成長と活力を取り込み、新たな「創造と成長」を実現することが必要
- ▼ 新興国マーケットを中心に、日本の強みであった製造業のみならず、文化資源大国である日本の文化を体現した産業群が、これからの経済・産業の発展や雇用創出の推進力になる

(「アジア・ゲートウェイ構想」、「文化産業立国」より)

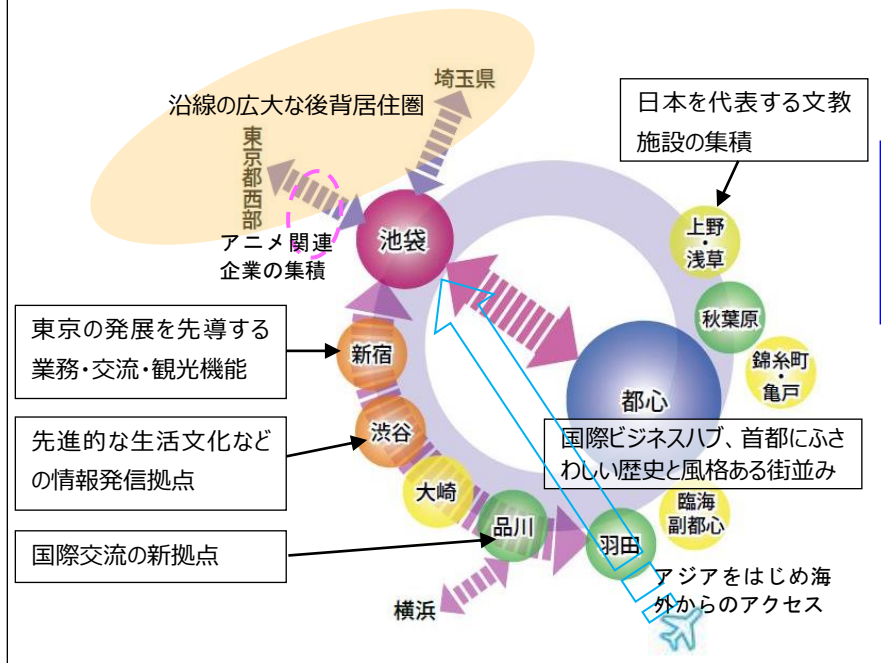
- ▼ 「世界一の都市・東京の実現」のための都市再生
 - ・日本の成長を支える国際経済都市の創造
 - ・都心等の機能強化による東京の都市力の更なる向上
 - ・東京、そして日本を支える人材の育成
 - ・芸術文化都市を創造し、日本文化の魅力を世界に発信

(「東京都長期ビジョン」の都市戦略の一部抜粋)

(2) 東京のなかの池袋

●東京の都市構造のなかでの池袋

- ・東京都西部・埼玉方面の大きな後背圏人口をもつターミナル
- ・羽田との接続性向上により世界からのアクセスも容易
- ・新たな文化を生み出してきた歴史と沿線のアニメ産業の集積
- ・「都心」と「住宅地」のエッジとして都市が形成

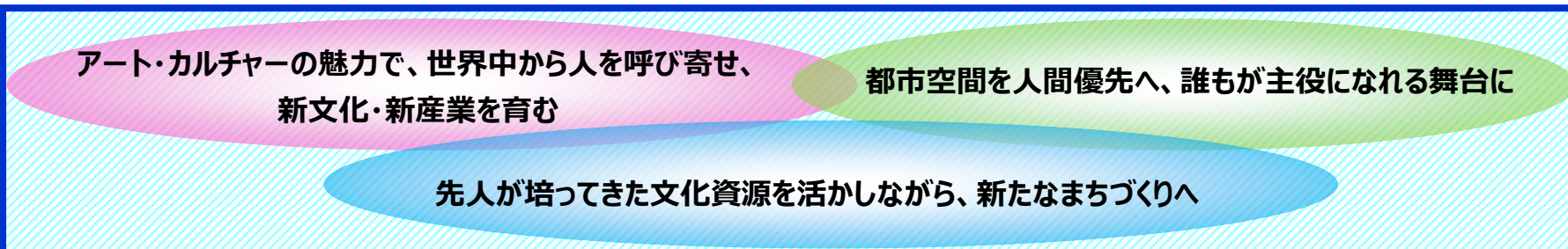


池袋が日本、東京のなかで果たす役割、池袋の都市再生の意義とは？

- ・日本、東京は、世界・アジアの成長と活力を取り込み、新たな芽を育てていくことが重要
- ・池袋は、丸の内・大手町のような国際ビジネス拠点とは異なる新たな国際性を有する拠点をを目指す
- ・歴史的なりたち、現状の機能集積、文化の多様性、都市構造などから、日本経済・産業の新たな「創造と成長」の強みとなる「芸術・文化」を育て・発展させる拠点としての優位性がある

・池袋らしさを生かし、持続・発展させるためには、多様な人や文化を受け入れる「交流」「発信」「成長」の場が重要
⇒人々が触れ合い、議論し、競い合い、成長の芽を育てていく都市機能、都市空間が必要

池袋駅周辺地域のまちづくりの視点



(3) 池袋らしさ

① 池袋のポテンシャル

●まちの多様性、文化の多様性、人の多様性をもつ池袋

- ◆ 駅前の商業施設の巨大な集積
- ◆ 比較的低廉な賃料の事務所ビル
- ◆ 周辺部でのリノベーションまちづくりの進展
- ◆ 多様な機能がコンパクトにまとまる生活文化拠点

- ◆ 多様な魅力・文化を生み出してきた池袋
 - ・アトリエ村、トキワ荘など若いクリエイターの揺籃の場としての歴史
 - ・サブカルチャーなどクールジャパンのショーケース
 - ・芸術劇場から小劇場まで揃う多様な文化施設
 - ・大学、専門学校等の教育機関の集積

- ◆ 国内外から多くの人をひきつける居住環境
 - ・アジアを中心とした外国人居住者の集積

② 豊島区国際アート・カルチャー都市構想



③ 池袋の課題

- ・世界有数の乗降客数を生かしたまちづくり
- ・周辺の幹線道路整備にあわせた駅周辺の歩行者優先化
- ・商業機能だけでなく業務機能等の強化
- ・駅東西の連携強化
- ・環境負荷の低減と安全性を備えた都市づくり(木密の解消)
- ・まちの資産を活かし個性ある美しい都市空間形成、など

(4) 社会変化への対応

- ・国内の人口減少、少子高齢化
- ・東京オリンピック・パラリンピックを契機とした国際的な注目とレガシーの継承
- ・ライフスタイル・ワークスタイルの多様化
- ・自動運転技術など交通技術の進歩
- ・広域交通ネットワーク(中央環状等)の形成

アート・カルチャーの魅力で、
世界中から人を呼び寄せ、新文化・新産業を育む

●池袋の魅力を発信

- ・東京屈指の商業地として発展してきた池袋は、単なる消費の場ではなく、芸術・文化の発信・交流の場として機能してきた。
- ・生活と文化、商業・業務機能が一体的に形成されたまちからは、時代とともに変化を遂げながら、ハイカルチャーからサブカルチャーまで、多種多様な芸術・文化が生まれてきた。
- ・東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムの開催により国際的な注目が集まる。

◆池袋の魅力（池袋ブランド）の積極的な
発信により世界から人を呼び込む

●世界中の人が集まるまち

- ・東京芸術劇場をはじめとする多様な劇場、広場や道路・公園などの活用により、リアルな表現・発表の場を用意することで、世界中からプレイヤーとオーディエンスを集める。

◆世界中から多様な価値観を持つ人たちが集まり
活動することで、新たな価値や魅力が創発^{※1}する



(西口街かど
回遊美術館)

(区役所まごごとミュージアム)

■多様な文化の発信

都市空間を人間優先へ、誰もが主役になれる舞台に

●創造と生活が一体となるまち

- ・「単に綺麗に整ったまち」ではなく、創造と生活の場が一体となった「懐の深さ」が多様な文化を育ててきた。
- ・すべてが高密度・高容積ではない、地域の個性やコミュニティを大切にしたい池袋らしい「界限」を生かしていく。
- ・車優先、効率優先となってきた都市空間を、人間優先に取り戻していくことで、すべての人が安全と安心を実感しながら過ごせるまち。

◆人が主役の空間整備（まちなかのいたるところをサードプレイス^{※2}へ）

◆安全・安心を実感しながら、住民も来街者も
普段着で楽しめるヒューマンスケールのまち



■アニメ・コスプレなどサブカルチャーの
魅力を積極的に発信

世界中から人を惹きつける 国際アート・カルチャー都市のメインステージ

界限を歩き、にぎわいと四季の彩りを感じるまち・池袋

先人が培ってきた文化資源を生かしながら、新たなまちづくりへ

●新しい価値を育てる（インキュベーション^{※3}）まち

- ・昭和初期の池袋周辺では、アトリエ村が形成され多くの芸術家が暮らし創作活動を行ってきた。戦後はデビュー間もない漫画家たちがトキワ荘などで寝起きし、互いに切磋琢磨しながら新しい文化を作り上げてきた。
- ・新しい価値や文化は、若い人たちや芸術家のたまごなど、後ろ盾が乏しいが意欲のある人たちから生まれてくる。



■市街地の縁辺部で形成されたアトリエ村
(復元模型)

◆池袋の歴史と多様な価値を受け止める受容性を生かし、
アーティストデビューや起業を目指す人たちのスタートアップの場を提供する



■既存ストックを活用したリノベーションまちづくり

●新しい価値を、新文化・新産業へと育てるまち

- ・芸術・文化を基盤とした新たな価値や魅力を、人と人、人と企業、企業と企業が、交流・連携することで、新文化、新産業へと育て、新たな活力としてまちに取り込んでいく。

◆新文化・新産業を育て、まちに取り込むことで
池袋の魅力をさらに高めていく



■女性企業家の支援

※1:「創発」とは、個々の要素の単純な総和を越え相互作用が全体に影響を与えて、新たな成果をもたらすこと。
 ※2:「サードプレイス」とは、家でも職場でもない第三の居場所のこと。自由な表現活動の場ともなりえる。
 ※3:「インキュベーション」とは、新しい文化や、新しいビジネスを支援・育成し発展させること。

戦略 1：文化と生活・産業が創発するまちづくり

まちの多様性、文化の多様性、人の多様性を持つ池袋の強みを生かしながら持続発展していくために、内外で活躍する企業の集積を図り、文化交流機能との連携強化による産業育成とともに、その受け皿となる空間整備を進めます。

■ 交流・創造・発信を支える機能の導入

- ・アート・カルチャーを支える機能の誘致と受け皿づくり
- ・新たなビジネスを生み出す業務・産業拠点の整備
- ・インキュベーション機能の整備

2020年・春「8つの劇場」を含む国際的な“文化にぎわい拠点”が誕生！



■ 多様な人々を惹きつけ、回遊が生まれる触れ合い空間

- ・まち全体がモールとなる時間消費型のまちの形成
- ・国内外から人を呼び込むための様々な滞在・宿泊場所の確保



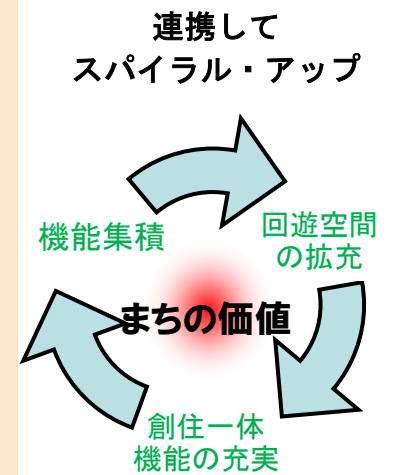
■グリーン大通りオープンカフェ

■ 創造と居住が一体となったまちの形成

- ・地区特性に応じた都心居住機能の導入
- ・リノベーションによるアーティスト支援機能の充実



■日の出ファクトリー



戦略 2：駅からにぎわいが広がるまちづくり

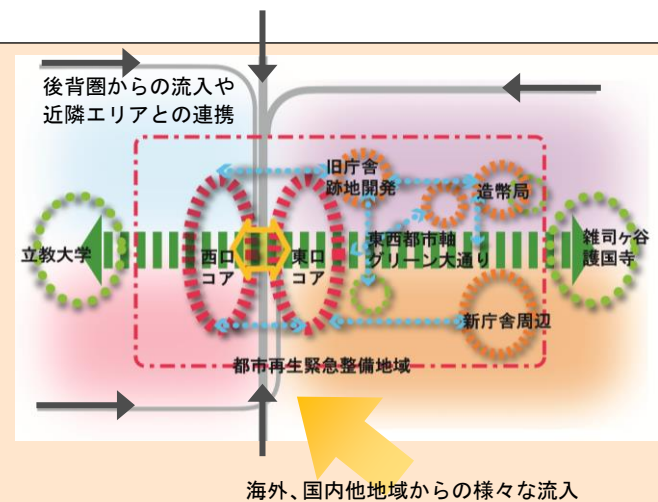
駅からまちへの回遊の促進、駅東西の交流を促進するために、駅とまちをつなぎ、シームレスに移動が可能となる空間整備を推進します。

■ 特色あるエリアを連携し、にぎわいが広がるまちづくり

- ・池袋らしい機能集積と周辺のまちとの多面的な連携
- ・東西の交流を促進する通路機能等の更新・整備

■ 駅の東西南北のシームレスな移動

- ・シームレスな案内とバリアフリー化
- ・東西の役割分担を踏まえた駅前広場の整備



戦略 3：界限を歩き、楽しめるまちづくり

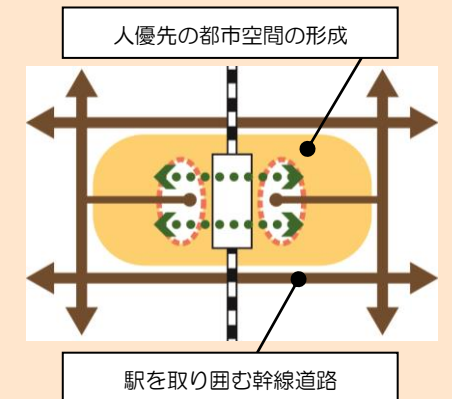
安心して回遊を楽しむことができるように、くるまを意識しない歩行者ネットワークを整備します。

■ 歩いて楽しい歩行者優先の空間とネットワーク

- ・ゾーンコントロールや歩車分離などによる歩行者優先空間の整備
- ・重層的で連続した歩行者ネットワークの整備
- ・歩行者優先の駅前広場整備

■ 歩行者優先を実現する交通基盤整備

- ・駐車場の集約・再整備などによる自動車の過大な引込み抑制
- ・移動を支援し、まちをつなぐ新たな公共交通システムの導入



戦略 4：誰もが安全・安心に暮らし、集えるまちづくり

誰もがセーフコミュニティを実感しながら活動、生活を営むことができるように、災害時の安全確保対策、防災・防犯機能の強化とともに子育て支援施設や生活支援施設の導入を促進します。

■ 安全が確保されたまち

- ・大規模災害発生時の公民連携した安全確保の取組みの強化
- ・一体的な案内システムによる誘導・案内
- ・開発に合わせた拠点的な防災機能の確保
- ・災害時においても都市機能を維持するエネルギーの確保

■ 安心して住み・活動できるまち

- ・セーフコミュニティ活動との連携による安全・安心の強化
- ・再開発による機能更新や木造住宅密集市街地の改善
- ・安心して子育てができるなど誰もが活躍するまち



戦略 5：環境と共生し、四季の彩りに包まれたまちづくり

環境に配慮し、都市のうらおいと安らぎが実感できる、低炭素、都市緑化を推進します。

■ 環境性能の高いまち

- ・都市開発に合わせたエネルギー効率の高い拠点の形成
- ・環境負荷の少ない交通環境整備
- ・建築物等の更新に合わせた環境性能の向上

■ 四季の彩りに包まれた個性ある街並み

- ・みどりの骨格軸の形成
- ・都市づくりと連携したみどりの創出
- ・地区特性に応じた個性ある景観づくり

